



【たなかのぞみ】 兵庫県立西脇工業高等学校出身。スポーツ健康科学部2年次生。高校2年で日本陸上選手権1500m2位、インターハイ同2位。同3年でアジア陸上1500m4位、デカネーション(国別対抗)2000m3位、国体3000m1位。大学入学後は1年次にアジアジュニア陸上3000m1位(大会新)、日本陸上5000m2位、U20世界陸上3000m1位、国体5000m1位、日本陸上クロスカントリー8km1位。2年次はアジア陸上5000m6位。豊田自動織機TC所属。

「一志走伝」を胸に 世界の頂点を目指して走る

昨年3000mでアジアジュニアと世界ジュニアを制した、女子陸上界のホープ。シニア参戦の今年は、早くも世界陸上5000mの代表に。着々と世界と戦う力をつけつつある20歳に、トラック競技に賭ける生活を聞いた。

1500mで鍛えた走力で ジュニアでは世界に敵なし

父はびわ湖毎日マラソンを2時間21分台で走り、3000m障害では日本選手権に出場。母も北海道マラソン優勝2回という陸上一家だ。御嶽山でトレーニングを行う両親に、子どもの頃から同行していた。両親が誇りを持って打ち込んできた競技に自身も身を捧げたい。中学の陸上部に入る時、その心に決めた。

きなのは1500m。中でも「1500の難しさが喜怒哀楽を全部教えてくれた」と言う。短すぎず長すぎない距離はチャレンジ要素の宝庫でもある。その1500mで勝ってこそ3000mで戦えるし、3000mで勝ってこそ5000mで戦えるというのが持論だ。その努力の成果が、昨年の世界ジュニア3000mでの金メダル。日本人の優勝は海外に衝撃を与えた。後半や終盤、外国勢のペースアップについていけないという日本人選手のパターンを見事に覆し、最後までアフリカ勢を寄せつけなかったのだ。「アフリカの選手たちはラスト勝負と読んで、ペースを落としていました。でも私にはいつも1500mを大事にしてきた練習の積み重ねがあったから、最初から余力を持ったままリードできたし、ラスト

でも逃げ切れたのだと思います」 ジュニアでは世界を獲ったが、シニアでは国内にまだ上がっている。トップクラスと伍するための課題も既にあぶり出している。スピードとスタミナという両輪の、さらなる向上だ。フォームの改善を研究したり、クロスカントリーに出場して体幹、脚力、スタミナを鍛えたりと、さまざまな角度から走力向上に取り組む。そして今秋ドーハで行われた世界陸上への切符を、見事手にした。

勉学とクラブチームでの 練習生活を両立

同じ高校でチームメイトだった後藤夢さんと共に、スポーツ健康科学部に進学した。陸上で実践してきたことが理論で肉付けされ、深く納得することが多いと言う。後藤さんとは父の指導のもと、共にクラブチームに所属して



いる。駅伝中心となる大学や実業団のクラブではなく、自分のペースでトラック種目に特化した練習・試合をしたいと模索した結果、現在の形に落ち着いた。大学入学以降は環境が常に少しずつ変化してきたが、それをストレスと捉えるよりも常に気持ちが高ぶっているという状態についてはどう考えているのだろうか。「父がくれるアドバイスは比較的緩いものなので、親子間で起こりそうな反発やストレスといったものはありません。むしろ調子が悪いときなどは遠慮なく訴えやすいし、その方が早く対策を講じられる利点があります」

両親が取り組んできたマラソンへの関心も、ずっとある。ただ転向は、現時点では考えていない。トラック競技とはまったく別物と言ってよいほどの違いがあり、「マラソンはその人の性質がもろに表れるので、走ってみなければ適性は分からない怖さがある」と思うからだ。今は悔いを残さないため、トラックにすべてを注ぐ。

ある日、父が「一志走伝」という言葉を与えた。たとえトップになれなくても、上を目指そうとする志は必ず人に伝わり、心を動かすはず。「私の気持ちにしっくり来た言葉でした。皆さんが見て面白いと思えば、応援したいと思ってくださいるような走りをこれからもしたいです」

母から子へ、子から母へ

毎号、スポーツ健康科学部の一組の親子をご紹介します。

母から子へ

母・島田恵美さん

和希、あなたが生まれてもうすぐ21年。いま改めて、楽しかった事、うれしかった事、怒った事、忙しかった事、たくさん思い出されます。1つ1つが、私にとって大切な思い出です。その反面、2歳上に姉が、3歳下には弟がいて、真ん中でさみしい思いをさせたのでは？無理な母の期待を背負わせたのではなかったかな？と、思ったりもしています。

とても活発で、自由で、行動力もあり、その反面人見知り…。小さいころから落ち着きはなく、スパーの中ではいつもいなくなり、迷子のお知らせが入っても知らんぷり。そんな時、いつものことだろうと私が探しに行かなくなったら、『迷子のお知らせをします』。和希君のお母さん、息子さんがかウンターでお待ちです。』と、放送が入った事をおぼえていますか？本当にびっくりしました。その時に、きちんと礼儀作法がつかいであらう武道をさせたいと思ひ、剣道をさせようと母が決意しました。

和希は、先生に怒られても休むことなく、しっかりと稽古に打ち込みたくさんの大会の応援に連れて行ってくださいましたね。でも、中学3年の、県大会で団体個人ともに全中大会に出場できなかった時、学校解散後に車の中で大声で泣いたことがあります。あんなに自分の感情

をむき出しにして母の前で泣いた姿を見たのは初めてのことで、一緒に泣きましたね。でも、そのあと、あなたは自分の口から「必ずインターハイの応援には連れていくから」と言ってくれ、進学先の高校も決め、早い段階での寮生活も決意しましたね。子離れできるのか？本当にあなたが剣道と寮生活(共同生活)の両立はできるのか？と不安だったことが思い出されます。しかし高校入学後は、あなたは私の前で弱音を吐くこともなく、地道に努力を重ね、高校1年の時から2年連続の選抜大会、高校3年の時に団体・個人共にインターハイの出場を決めて、私を応援に行かせてくれました。本当にうれしかったです。そして、同志社大学に進み、勉強もすっかりしなくなってはいけな環境の中で、それでも剣道を続け、これから先も続けてくれること、私はとてもうれしく思っています。

最後になりましたが、和希は姉、弟のことをよく分析してその気持ちを考えて行動してくれること、とてもうれしく思います。私の相談にも、最近ではしっかりとてくれてありがとう。自由にしていくようにみえて、実はきちんと周りを観察し、柔軟な考えを持つ、優しい和希でよかった。母のもとに生まれてきてくれてありがとう。これからも精一杯応援します。

子から母へ

子・島田和希さん

これまでに母さんに手紙を書いたことは無く、正直恥ずかしい部分が多いですが、この機会にこれまでの感謝の気持ちを伝えたいと思います。

まず、私はたくさんのご迷惑をかけたきました。昔から決して良い子とは思いません。その度にお母さんに怒られましたが、反省することなくまた同じことを繰り返して、また怒られ、を何度もやってきました。しかし、お母さんは私のことを考え、一人前の大人に育ててくれました。今、自分がこのように元気に生活を送り、同志社大学に通っていることもお母さんがしっかりと育ててくれたおかげであると今わかりました。

これまでに様々なことで支えられてきましたが、一番は剣道に対してだと思っています。私は、小学校一年生の時から剣道を始め現在まで続けてきました。剣道が好きで、ずっと続けていますが、始めたきっかけはお母さんの一言だったのを覚えています。しかし、始めた当初は剣道ではなく、サッカーや野球が楽しそうに見えて、剣道をしたくないと思った時もありました。それでも続けてこれたのはお母さ

んの支えや応援があったからです。昔は、剣道ができるのが当たり前で、稽古に行きたくないと言った事や、わがままを言った時もありましたが、大学生となり振り返ってみると剣道ができる環境を作ってもらっていたのだと気付きました。高校生の時には親元を離れ寮生活を送り、さらに心配をかけていたのだなと思います。ただ楽しく友達と生活を送っていましたが、今思えば、金銭面やその他のことでも迷惑をかけていました。いつも剣道ができる良い環境を作ってくれたのは、お母さんを含め周りの人々に支えられてきたのだと思います。

迷惑をたくさんかけてきた中で、親孝行をできたのは少ししか無いと思ひます。これからは皆さんの迷惑をかけると思ひますが、それ以上に親孝行をして返していければいいなと思ひています。

最後に、ここまで大きく丈夫に育ててくれたお母さんに改めて感謝しています。ありがとうございます。そして、これからもよろしくお願ひします。またこれからは、健康に気をつけて長生きしてください。





成績通知書の確認方法

同封しています成績通知書の確認方法についてお知らせいたします。2017年度以前生と2018年度以降生ではカリキュラムが異なります。学年によって一部表記が異なりますが、2018年度以降生を例に説明いたします。

履修年度	期間	科目名(クラス)	単位	成績	担当者名	履修年度	期間	科目名(クラス)	単位	成績	担当者名
必修科目(26単位)						選択科目F群(30単位以上)					
2018	春学期	スポーツ健康科学入門	2	A	1	2018	春学期	心理学1	2	A	
2018	秋学期	スポーツ生理学	2	D		2019	春学期	心理学2	2		
2019	春学期	基礎実習	2	B		2018	秋学期	スポーツ・パフォーマンス1-115	1	A	
2018	春学期	ファースト・イヤー・セミナー	2	A	3	2018	秋学期	スポーツ・パフォーマンス1-611	1	A	
2018	春学期	スポーツ社会学	2	B		《英語(8単位以上)》					
2018	春学期	生理学	2	F		2018	春学期	コミュニケーション・イングリッシュ1-422	1	C	
選択科目A~E群(48単位以上)						《英語以外(4単位以上)》					
《選択科目A群(6単位以上)》						2018	秋学期	コミュニケーション・イングリッシュ2-322	1	B	
2018	秋学期	スポーツ政策論	2	A		2018	春学期	アナリティカル・リーディング1-265	1	A	
2019	春学期	スポーツ運動学	2	A		2018	秋学期	アナリティカル・リーディング1-265	1	B	
2019	春学期	トレーニング論	2	C		2019	春学期	イングリッシュ・セミナー1-546	1	C	
2018	秋学期	健康運動論	2	B		2019	春学期	イングリッシュ・セミナー2-320	1		
****	秋学期	スポーツ教育学	2			2019	春学期	イングリッシュ・ワークショップ1-354	1	C	
《選択科目B群(22単位以上)》						****	秋学期	イングリッシュ・ワークショップ2-503	1		
****	秋学期	スポーツ医学A(内科系)	2			2018	春学期	中国語入門1-2	2	B	
2019	春学期	スポーツ医学B(外科系)	2	B		2018	秋学期	中国語入門II-5	2	B	
2019	秋学期	生活習慣病概論	2	中止	4	《選択科目D群》					
2019	春学期	発育発達と老化	2	B		XX18	春学期	スポーツ健康科学のための自然科学入門	2	F	
****	秋学期	スポーツ栄養学	2			2019	春学期	スポーツ健康科学のための自然科学入門	2	C	
《選択科目E群》						2019	春学期	生物学	2	F	

参考  
2019年度春学期終了時点での各学年の修得単位数ならびにGPAの平均値

1年次生:	20.2単位	GPA 2.53
2年次生:	59.3単位	GPA 2.40
3年次生:	91.5単位	GPA 2.33
4年次生:	115.9単位	GPA 2.48

- 1 (評価評点判定)  
A: 4.0 (特に優れた成績を示した)  
B: 3.0 (優れた成績を示した)  
C: 2.0 (妥当と認められる成績を示した)  
D: 1.0 (合格と認められる最低限度の成績を示した)  
F: 0.0 (合格と認められるに足る成績を示さなかった)  
(GPA算出式)  
各成績評価段階に4.0~0.0の評点(Grade Point)を付与して、1単位あたりの評点平均値=GPA (Grade Point Average)を算出します。
- 2 それぞれの科目を履修した年度です。
- 3 現在登録中の科目です。(成績評価欄は空欄になっています)
- 4 1ヶ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと本人が判断して、履修を中止した科目です。この場合GPAには算入されません。
- 5 合格評価で書き換えられた不合格評価であることを示します。F評価を取得した科目で、再履修し、D以上の評価を得ることができれば、最初のF評価はGPAに算入されません。
- 6 単位修得表内の必修科目欄(表左上部の3項目)について、「卒業研究A・B」については修得状況を独立して記載するとともに、「必修演習科目」にも含めて記載します。(2017年度以前生については、必修基礎科目として修得した単位の中にスポーツ・パフォーマンス1の単位も含めて記載しています。)
- 7 選択科目B群で卒業に必要な22単位のうち、16単位を取得している。
- 8 在学期間中に修得した単位数を示します。卒業に必要な124単位のうち、54単位を取得している。
- 9 在学期間中に修得したGPAを示します。
- 10 本人住所の変更は、学生がDUETを通じて行うことができます。
- 11 父母住所の変更は、学生が窓口を通じて行うことができます。

※上記の成績通知書はこの誌面用に作成したものです。実際のものとはサイズ等異なります。

同志社大学 成績通知書

学部 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科

学籍番号 2018年度(2年次) 999番

氏名 ドウシタ タロウ 同志社 太郎  
生年月日 19XX年(平成X年)1月1日生 性別:男

学生ID: 1F18XXXX 発行年月日: 201X/X/X

学籍に関する事項

本人住所 10〒

父母氏名 続柄

父母住所 11〒

学籍異動

異動種別	異動年月日	異動事由
入学	2018年4月1日	

備考

単位修得数

種別	卒業必要単位数	修得数		種別	卒業必要単位数	修得数	
		科目	単位			科目	単位
必修基礎科目	12	5	10	選択D群		1	2
必修演習科目	14			選択E群			
卒業研究A・B	6			選択F群	30以上	11	14
				教養関連	18以上	3	4
選択科目	98以上	28	44	英語	8以上	6	6
選択A~E	48以上	17	30	英語以外	4以上	2	4
選択A群	6以上	4	8				
選択B群	22以上	8	16	合計	124	33	54
選択C群	6以上	4	4	自由科目			8
C群I類	4以上	4	4	免許・資格関係科目			
				必・選A~E 40単位		2.88	
直近学期GPA 2.71				累計GPA 2.98			

2019教員父母連絡会総会レポート



学内近況報告および総会議事が無事に進行

5月25日(土)、夢告館102教室において、2019年度教員父母連絡会総会が開催されました。

13時に始まった総会では、山崎聡子会長の挨拶に続いて柳田昌彦学部長が、昨年12月に学部開設10周年記念事業の合同スポーツフェスタをご父母の協力のうちに実施できたことに謝辞を述べた後、昨今の教育体制整備、国際交流などについて報告を行いました。

教育体制関連では、昨年度学生の定

員を210名から221名に増やしたこと、科目「応用演習」の新設、助手制度の新設などを報告。「応用演習」は、2年次前期の「基礎実習」で身につけた力を発展させ、3年次のゼミへつなげることが目的です。助手制度は本学部独自の任期付教員制度。博士課程を修了した卒業生を本学部の教員として迎え、研究を進展させてもらいながら、学部・研究科の学生の指導・教育に携わってもらおうという趣旨です。時代のすう勢に従い、今年度から学部初の女性教員を迎えたことも報告されました。

グローバル化に関しては、今後の留学生受け入れ増加に備えて英語科目「スポーツ健康科学グローバル演習」を新設し、ドイツのテュービンゲン大学と学生交換協定を締結したことなどを報告。同大学は1477年設立で、世界でも古い大学の一つです。日本とシステムは少し異なりますがスポーツ健康科学を学べる学部があり、本学部の学生が留学できると紹介されました。

今年度から大学全体でスタートした「ALLDOSHISHA教育推進プログラム」では、本学部からも「スポーツ・健康科学研究」を通して学力の3要素を育成する高大接続プログラム

の開発とその強化」が採択されています。スポーツ健康科学研究を適切に評価する仕組みづくりと高大接続関係の構築に力点が置かれたもので、優秀な高校生を本学部の教員が指導し、入試を通じて本学部に受け入れ、さらに大学の4年間で成長してもらおう最長6年間のプログラムです。他には受験生の動向、学生アンケートの結果などに触れた後、同志社スポーツユニオン2018年度アスリート表彰で優秀個人賞を受けた25名中、本学部の学生が6割の15名に上ったことも報告されました。本学部が同志社スポーツを大きく支え、世界レベルでも活躍中の学生がいることは、非常に喜ばしく心強いことでした。

2018年度事業報告の後には議事に移り、2018年度決算および監事報告、2019年度事業計画、同予算、同役員が審議され、原案通り承認。なお個人情報保護に関する規程について、父母役員の中に個人情報保護委員会を設置することなどが柳田学部長から説明

明され、規程案は拍手によって承認されました。総会終了後は17名の出席教員が自己紹介を行いました。

カリキュラムの特色・資格取得、学生支援について

休憩を挟み、14時35分からは学部報告を実施。まず竹田正樹教務主任が「カリキュラムの特色と資格取得について」と題して、自由度の高い履修システム、資格取得、キャンパスハラスメント相談員制度などを紹介しました。本学部で扱うのは文理融合型の応用総合科学であるため、学生には学修モデルを提示していること、必須科目「ファーストイヤーセミナー」(1年次)および「基礎実習」(2年次)で学びの基礎を身につけさせることにも注力していることを紹介。多様な実技が学べるのも特長で、障がい者スポーツの指導も行なっている旨が紹介されました。

教員免許については、高等学校・中学校教諭一種免許(保健体育)や、佛教大学教育学部通信教育課程との連携によって小学校教諭免許状(二種)も取得可能であることを紹介。他にも日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コースに本学部のプログラムが認定されていること、健康運動指導士養成学校の認定を受けていること、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員の初級・中級が取得できることが紹介されました。キ

2019年度 役員構成

役職	氏名
会長	西垣美代子(3年)
副会長	高橋美津子(2年)
監事	森本 理恵(1年)
委員	山崎 聡子(4年)
委員	横藤 美香(4年)
委員	嵐田 恵美(3年)
委員	片山 博(2年)
委員	高橋 陽子(1年)
副会長	柳田 昌彦(学部長)
会計	若原 卓(学生主任)
委員	庄子 博人
委員	高倉 久志



キャンパスハラスメント相談員制度については、学生から相談員(教員)に相談があれば大学のキャンパスハラスメント防止に関する委員会に報告され、審議結果を学生に知らせる仕組みが説明されました。

若原卓学生主任は「スポーツ健康科学部の学生支援について」という題で報告を行いました。冒頭、学部情報ポータルサイト「みんなの大学情報」で本

学部が私立大学1596学部中、総合24位(研究室・ゼミの評価は11位)であることを紹介。5種類の奨学金制度の案内後は、2018年度の就職状況報告しました。2018年度卒業生223名の進路は、就職200名、進学生8名、その他留学などが15名で、学生の就職率は男子99・3%、女子100%、大学院前期課程修了生100%。業種別就職状況ではメーカーが最多で

■スポーツ健康科学部の先生方(アルファベット順)

学部役職	氏名	研究分野
助教	新井 彩	トレーニング科学/バイオメカニクス
准教授	海老根直之	身体活動量、エネルギー代謝に関する研究
教授	藤澤 義彦	スポーツ選手の資質に関する研究
教授	福岡 義之	アスリートの至適コンディショニングの獲得と競技力向上
教授[大学院教務主任]	北條 達也	スポーツ外傷・障害の疫学および予防
教授	石井好二郎	運動処方開発および展開
教授[教務(国際)主任]	石倉 忠夫	運動技能学習、スポーツ心理学
教授	井澤 鉄也	脂肪組織の運動に対する適応機構
准教授[研究主任]	上林 清孝	運動神経生理学、運動制御・学習
助手	加藤 久詞	運動による脂肪細胞の適応変化に着眼した研究
助教	河西 正博	障がい者スポーツ論
助教	松倉 啓太	スポーツにおけるコーチング
教授[教務(入学)主任]	中村 康雄	スポーツ・バイオメカニクス
教授	二宮 浩彰	スポーツ・マーケティング
准教授	庄子 博人	スポーツビジネス
助教	高木 俊	運動中の骨格筋における循環と代謝
助教	高倉 久志	骨格筋の有酸素性代謝能力に関する研究
教授[教務主任]	竹田 正樹	スポーツ競技力とトレーニングの運動生理学
教授	田附 俊一	遊びによる学び、わざの学習・指導・創造
客員教授	富田 英司	スポーツ法
准教授[学生主任]	若原 卓	骨格筋のメカニクス
助教	鷲谷 洋輔	身体文化、エスノグラフィー、質的調査法
教授	渡邊 彰	体育科の指導と評価
助教	渡邊 裕也	筋力トレーニング、フレイル・サルコペニア予防
教授[学部長]	柳田 昌彦	介護・生活習慣病予防のための運動疫学研究
教授	横山 勝彦	スポーツ政策論・スポーツ組織文化論

33%でした。過去の本学部卒業生の就職率を見ると、ほとんどの年で全学部平均より高く、理由としてはスポーツに打ち込んできた経験が企業に評価されているのではないかとという見解が示されました。大学ではキャリアセンタ1による各種講座やガイダンスを、免許資格課程センターでも講座や説明会を多く開催して学生の就職活動を支援しています。

**就職活動セミナーで最新情報を紹介**

その後は「就職戦線における課題と保護者の皆様へお願い」と題して、株式会社マイナビの丹下晴恵様による就職活動セミナーを開催しました。

経団連は昨年、大手企業の採用面接解禁日など就職活動に関するルールを、2021年春入社生の学生から撤廃すると発表しました。混乱を避けるため当面は政府主導で3年生の3月から本格的に活動が始まり4年生の6月から面接解禁となつていますが、この流れは形骸化しており、早い企業では4月に内定を出しているという現状が語られました。諸外国ではいわゆるジョブ型採用が一般的であることなどを背景に、通年採用への移行も実現しつつあるという説明もありました。当面は一括採用と通年採用との並行が続くそうなおこと、就活スタートと同時に即行動期に突入する流れが続くという見通しを示されました。

インターンシップの説明では、受け入れ企業が増えていること、参加経験のある学生はマイナビ調べで72・8%というデータなどが示されました。近年は週末体験や一日体験など参加の機会を広げる企業が増えたため、部活動に忙しい体育会所属学生でも参加可能なケースが増えているという報告もありました。

就職活動のポイントとしては、主体性と実行力に代表される「社会人基礎力」が取り上げられました。同志社大学では授業や部活に学生の自主性を尊重する土壌があるため、自然にそのような力が培われるのではないかと、丹下様の心強い感想でした。就職活動は正解のない問いを自分で見つけていく作業。その過程で自己分析を行う際、そばで成長を見てこられたご父母からも助言をしてあげてほしいという要望も添えられました。ご父母の皆様には一社会人としてご息を俯瞰していただき、過干渉は控える。そしてご息子が困った時には手を差し伸べていただきたいとの呼びかけでセミナーは締めくくられました。

16時からは、日糧館にあるレストラン「アマーク・ド・バラディ・ラッテ」で懇親会を開催。なかなか雰囲気の中、ご父母と教員との間で歓談の時間が持たれました。ご父母の皆様のご協力により、本年度の総会および関連行事が盛会裏に終わりましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

スポーツ健康科学部生の活躍

(個人記名の記事から7月までの主要戦績を抜粋)

- 【フィギュアスケート部】
  - ◎第91回日本学生氷上競技選手権大会 個人準優勝・団体準優勝・友野一希(3年)
  - 【ソフトボール部女子】
    - ◎第51回関西学生ソフトボール春季リーグ戦 優勝・吉岡七海(4年)・梅原千枝(4年)・富山綾音(2年)・橋本芽衣(2年)・塩川満里奈(1年)・麻生汐音(1年)・山口未葵(1年)
- 【ソフトテニス部】
  - ◎令和元年度関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会 優勝・上岡俊介(2年)
  - ◎令和元年度関西学生ソフトテニス春季リーグ戦 優勝・山崎太一(4年)・鈴木雄大(3年)・村上智基(3年)・上岡俊介・及川慶斗(2年)・稲福連音(1年)
- ◎令和元年度関西学生ソフトテニス選手権大会 優勝・上岡俊介
- ◎第39回全日本大学ソフトテニス王座決定戦 団体3位・山崎太一・村上智基・上岡俊介・稲福連音
- ◎令和元年度西日本学生大学対抗ソフトテニス選手権大会 団体3位・村上智基・上岡俊介・稲福連音
- ◎令和元年度西日本学生ソフトテニス選手権大会 優勝・上岡俊介
- ◎第61回関西学生体操選手権大会(新体操の部) 優勝・堀孝輔(3年)



- ◎第69回西日本学生体操選手権大会(新体操の部) 優勝・堀孝輔
- 【空手道部】
  - ◎第53回関西学生空手道個人選手権大会 個人形/優勝・清水那月(4年)
  - ◎第63回全日本学生空手道選手権大会 個人形/準優勝・清水那月
  - 【射撃部】
    - ◎第66回春季関西学生ライフル射撃選手権大会 10mビームスistolデジタル男子立射60発競技/団体総合優勝・佐藤匡哉(3年)
    - 50mライフル女子3姿勢120発競技/団体総合優勝・中口遥(4年)・阿部有沙(4年)
    - 10mエアライフル女子立射60発競技/優勝・中口遥 団体総合優勝・中口遥・西川弥希(2年)
    - ◎第30回西日本学生ライフル射撃選手権大会 10mエアピストル男女立射60発競技/3位・佐藤匡哉
    - 50mライフル女子3姿勢120発競技/2位・阿部有沙 団体総合優勝・中口遥・阿部有沙
    - 10mエアライフル女子立射60発競技/優勝・中口遥 団体総合優勝・中口遥・西川弥希・目羅渚(1年)
    - ◎第23回日本学生選抜スポーツ射撃選手権大会 50mライフル女子3姿勢120発競技/準優勝・阿部有沙 女子団体総合優勝・中口遥・阿部有沙
    - 10mエアライフル女子立射60発競技/団体総合優勝・中口遥・西川弥希
    - 【フェンシング部】
      - ◎平成31年度関西学生フェンシング新人戦 優勝・成田武永(1年)
      - ◎全日本学生フェンシング王座決定戦 男子サーブル/3位・成田武永 女子サーブル/3位・安部詩織(4年)・白峰香(3年)・植村咲香(2年)
      - 【水泳部】
        - ◎第7回関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会 女子50m自由形/優勝・石井千尋(3年) 女子400mメドレーリレー/優勝・石井千尋・國友美緒(1年)

- (4年) 女子100m自由形/優勝・石井千尋 男子200m平泳ぎ/優勝・満洲雄亮(3年)
- ◎第93回関西学生選手権水泳競技大会 女子100mバタフライ/優勝・國友美緒 女子100m自由形/優勝・石井千尋 女子50m自由形/優勝・石井千尋 女子800mフリーリレー/優勝・石井千尋・山本美杏(1年)・國友美緒 女子800m自由形/優勝・山本美杏 女子400m自由形/優勝・山本美杏
- 【剣道部】
  - ◎第64回西日本学生剣道大会 男子団体優勝・横藤就平(4年)
  - 【陸上競技部】
    - ◎第96回関西学生陸上競技対校選手権大会 十種競技/優勝・別宮拓実(4年) 男子3000m障害走/優勝・山田光希(4年)
    - ◎第72回秩父宮賜林西日本学生陸上競技対校選手権大会 男子400mハードル走/3位入賞・畑浦佑亮(3年) 女子100mハードル走/準優勝・丸本佳苗(3年)

**スポーツアトム編集局**

スポーツアトム編集局(体育会情宣機関)では各部活を局員が担当し、日々体育会の活動取材し、紙面やHPにて発信しています。「カレッジスポーツを広めたい」という想いから、全ての作業に全力を注ぎ、これからも活動していきます。詳しくはHPをご覧ください。

<http://doshisha-atom.net/>

- ◎第54回関西学生賞典障害馬術大会 個人優勝・武道美紀(1年) 団体優勝・高橋勇人(3年)・武道美紀
- ◎第79回西日本選抜学生相撲大会 団体の部/3位・竹林将太
- ◎第44回西日本学生相撲個人体重別選手権大会 115kg未満級/3位・竹林将太
- 【硬式野球部】
  - ◎第26回大学野球関西オールスター5リーグ対抗戦 優勝・松本哲幣(4年)・本間太一(3年)
  - 【少林寺拳法部】
    - ◎第57回少林寺拳法関西学生大会 組演武女子二段以上の部/1位・稲垣江梨花(3年)
    - 【レスリング部】
      - ◎令和元年度西日本学生レスリング新人選手権大会 フリースタイル70kg級/優勝・佐長拓末(1年)
      - 【居合道部】
        - ◎第36回西日本学生居合道演武大会 団体の部/優勝・元家涼歌(3年)
        - 【ボート部】
          - ◎2019年度関西選手権競漕大会 女子舵手付きクオドルプル/優勝・石川裕希乃(2年)
          - 【馬術部】
            - ◎第54回関西学生賞典障害馬術大会 個人優勝・武道美紀(1年) 団体優勝・高橋勇人(3年)・武道美紀



2018年度 スポーツ健康科学部教員父母連絡会 決算報告書、および2019年度予算

(単位：円)

項目	2018年度		備考	2019年度
	予算	決算		予算
収入	前年度繰越金	¥4,288,404		¥3,955,962
	会費(学生分)	¥4,710,000	¥4,727,500	¥5,000(1年分) / ¥2,500(半期分)
	会費(教員分)	¥125,000	¥130,000	¥5,000×教員26名(在外研究により前年分含む)
	会費	¥100,000	¥82,000	¥2,000×懇親会参加者41名
	合計	¥9,223,404	¥9,227,904	
	合計	¥700,000	¥390,620	会議時の弁当湯茶等、謝恩会補助
	文具雑品費	¥40,000	¥4,663	封筒、父母会事業に要する文具雑品
	郵便料	¥500,000	¥151,019	会報・成績票発送等切手、ハガキ、10周年案内状送付
	賃借料	¥200,000	¥9,000	地方懇談会会場賃借料(東京オフィス)
	謝礼	¥1,300,000	¥1,043,958	父母役員手当、学生アルバイト謝礼、10周年記念講演講師謝礼
支出	一般旅費	¥150,000	¥114,420	地方懇談会会場までの旅費
	交通費	¥350,000	¥116,160	役員会会場までの交通費
	印刷製本費	¥2,250,000	¥1,198,800	会報制作(年2回)、教員父母連絡会専用封筒印刷、卒業アルバム製作費(2018年度卒業記念品)
	図書費	¥200,000	¥82,955	教員父母連絡会寄贈図書等
	奨学金	¥1,600,000	¥650,000	父母会奨学金(¥50,000×10名)、海外フィールドワークに係る補助金
	その他委託費	¥750,000	¥775,347	会報取材・製作者委託費(1回)、信書発送委託補助(1回)
	雑費(経)	¥200,000	¥5,000	スポーツアトム協賛金等
	雑費(調)	¥983,404	¥660,000	記念品(グッズ)等
	その他支出		¥70,000	休学などによる父母会費返金など
	次年度繰越金		¥3,955,962	
合計	¥9,223,404	¥9,227,904		¥8,900,962

キャンパスカレンダー

秋学期	
2019年	
11月 2日(土)	同志社クローバー祭
3日(日)	
4日(日)	
4日(月)	
23日(土)	勤労感謝の日(授業日)
26日(火)	創立記念行事週間(休講)
27日(水)	
28日(木)	
29日(金)	創立記念日(休日)
12月 25日(水)	クリスマス降誕日(休日)
	冬期休暇開始
2020年	
1月 5日(日)	冬期休暇終了
6日(月)	講義再開
23日(木)	創立者永眠の日
24日(金)	講義最終日
25日(土)	期末試験開始
2月 14日(金)	期末試験終了
3月 上旬	卒業可否通知
22日(日)	秋学期卒業式・学位授与式(10:00~)
24日(火)	在学生成績通知
31日(火)	秋学期終了

教員父母連絡会寄贈図書リスト

警上館のラーニング・テリア(自習室)に常置します。

書籍名	書籍名
スポーツ政策論	滋賀県の保健体育科過去問 2020年度版
入門 スポーツガバナンス 基本的な知識と考え方	奈良県の保健体育科過去問 2020年度版
SPSSによるやさしい統計学 第2版	兵庫県の保健体育科過去問 2020年度版
スポーツバイオメカニクス入門 第3版	和歌山県の保健体育科過去問 2020年度版
絵で見る講義ノート	学校保健ハンドブック(第7次改訂)
バイオメカニクスで読み解くスポーツ動作の科学	新版基礎から学ぶ学校保健 第2版
石井直方の筋肉まるわかり大事典	[会社四季報]業界地図 2019年版
ボディ・ナビゲーション	スポーツ栄養学:
スポーツ生理学	科学の基礎から「なぜ?」にこたえる
ニューロメカニクス身体運動の科学的基盤	就職四季報 総合版 2020年版(就職シリーズ)
標準整形外科学 第13版	就職四季報 優良・中堅企業版 2020年版
健康運動指導士試験 要点整理と実践問題	就職四季報 企業研究・インターンシップ版 2021年版
健康運動指導士試験攻略トレーニング問題集	病気がみえる vol.12 眼科
一テキスト平成26~30年対応	病気がみえる vol.12 眼科
京都府の保健体育科過去問 2020年度版	公衆衛生がみえる 2018-2019
大阪府・大阪市・堺市・豊能地区の保健体育科過去問 2020年度版	年間購読(月刊誌) 教職課程
	年間購読(月刊誌) 教員養成セミナー

学部と父母を結ぶホームページです。一度アクセスしてみてください。  
<http://sports.doshisha.ac.jp/guardian/overview/overview.html>  
 ●スポーツ健康科学部ホームページ <http://sports.doshisha.ac.jp/>  
 ●同志社大学ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/>

連絡会では、ご父母の皆様方からの声を会の運営に生かしていきたいと考えております。会報への感想および提案、あるいは会の運営方法、企画等、なんでも結構ですので、下記までお寄せください。  
 同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会(スポーツ健康科学部事務室内)  
 Tel.0774-65-6030 Fax.0774-65-6029 e-mail: jt-spoj@mail.doshisha.ac.jp

ご意見・ご感想をお寄せください!

新しく着任された先生から自己紹介 新井彩先生・富田英司先生



今年度4月に着任しました新井彩です。武庫川女子大学健康・スポーツ科学部および短大

健康・スポーツ学科での8年間の教員生活を経て、同志社大学スポーツ健康科学部に参りました。教員として教育、研究、スポーツ実践に取り組み素晴らしい環境を大変有難く思い、現在は日々学生のみなさんと共有する時間や場が増えていくことを嬉しく感じています。

専門領域は、トレーニング科学、スポーツバイオメカニクスです。専門競技が陸上競技であることから、より速く走りたい、高く・遠くに跳びたい、そのメカニズムを明らかにする、ということに基本的な興味関心があり、競技の現場的な動作やトレーニング、その基礎となるヒトの筋力発揮や制御、筋や腱のメカニクス等に注目しています。トレーニング方法は多種多様に存在しますが、本質的に何をどのようにトレーニングするのか、ということを掴まなければなりません。スポーツの実践現場で起きていることを観察しその改善に取り組みたいです。アイディアは、本質を捉えたトレーニングを可能にし、その法則からトレーニングは創造されるものと考え、日々の課題に取り組みたいです。現在は、研究活動に力を注ぎ、教育活動の発展を目指すことに加え、



本年4月よりスポーツ健康科学部の客員教授として着任いたしました富田英司と申します。

私は弁護士としてスポーツを巡る交渉や裁判、スポーツ仲裁などスポーツ案件に携わっているほか、日本スポーツ仲裁機構の理解増進専門職員を歴任するなど、実務家として日々スポーツ法務に取り組みたいです。また、大学スポーツコンソーシアムKANSAI(KCAA)の理事として、大学スポーツの振興や課題解決にも取り組んでいます。

ライフワークでもあるコーチングについても新たな気持ちで実践に努めています。学生のみならず、大学での講義、実技、スポーツ実践現場での経験すべてに繋がりを持った学びを目指して欲しいと思います。多角的な視点で物事を捉え、論理的に考え、学問として自身の身体を使った「運動」、スポーツへの取り組みを捉えることを通じて、社会に貢献できる人材に成長してもらいたいと思います。これから多くの挑戦をしていけるような充実した場と機会を共にできるように努めて参りたいと思います。

の思考や人権感覚が要求されることなくありません。例えば、一部の国際競技連盟には、生まれつき血中アンドロゲン(男性ホルモン)値が高い女性が女子競技大会に参加するためには男性ホルモン値を抑えるホルモン治療が必要であると規定があります。この規定は「競技の公平性」を確保するという要請から作られたものですが、一方でその選手にホルモン治療を強制する点で「人権侵害」ではないかと指摘されています。スポーツビジネスに目を向ければ、球団やクラブの「戦力均衡」や「過当競争の抑制」という目的のもと、プロ野球選手のドラフト制度や移籍制限があり、他方で選手の「人権(自由権)」を侵害し、交渉力を制限している点で独占禁止法に違反するのではないかと指摘もされています。

●各種奨学金について

スポーツ健康科学部では、学術、文化、スポーツ活動等において優れた成果をあげ、かつ、学業、人物共に優秀な学部学生に対して奨学金を給付します。これらの奨学金はすべて応募形式になっており、2019年度の募集は次のとおりでした。  
 【奨学金の種類(公募人数)】  
 同志社大学育英奨学金  
 (人数:学術部門1名、正課外部門全学で20名以内)学部からの候補者は4名以内、金額:年額30万円)  
 スポーツ健康科学部奨学金  
 (人数:4名、金額:年額10万円)  
 教員父母連絡会奨学金  
 (人数:8名以内、金額:年額5万円)  
 【出願方法】  
 ①出願資格  
 次の①~③の条件を全て満たした者  
 ①成績基準:奨学金を受けるに相応しい成績を有している者  
 ②当該春学期までに所定の単位数を修得していること  
 ③前年度秋学期および当年度春学期中に、スポーツ、文化・芸術、社会貢献、地域活動、ボランティアなどにおいて優れた成績(功績)を残した者で、現在もその活動を継続している者。  
 ④提出書類  
 ・2019年度の奨学金願書(所定用紙)  
 ・競技や各種活動における優れた成績(功績)を客観的に証明する資料  
 ⑤募集時期  
 2019年10月8日(火)~10月21日(月)  
 ⑥提出場所  
 京田辺キャンパス教務センター  
 スポーツ健康科学部担当

# DO FIELD 17

Doshisha  
University

DO-FIELD [ドゥ・フィールド] 同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報 第17号 2019年11月発行  
[編集・発行] 同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学スポーツ健康科学部事務室内 Tel.0774-65-6030 Fax.0774-65-6029 e-mail:it-spojrn@mail.doshisha.ac.jp  
[デザイン] 郷原広行 (株式会社デザイン) [制作・印刷] 株式会社デザイン